

ユーティリティコンサルを特定

高松市大工町・磨屋町地区 磨屋町準備組合 再開発計画策定

高松市大工町・磨屋町地区市街地再開発準備組合（高松市）は、同地区の第一種市街地再開発事業に伴う推進計画策定業務委託を公募した結果、ユーティリティコンサルを特定した。近く契約する。

参加は同者のみだった。履行期限は2016年3月31日。事業協力者として西松建設が参加し、人員のサポートなど再開業務を支援していく。19年度の事業完了を目指す。

総事業費は約60億円を見込む。

同再開発事業は、高松丸亀町商店街をはさみ東西に分かれている磨屋町街区と大工町街区、計0・47秒を一体的に開発する。

老朽化している駐車場が立地する西側の磨屋町街区では、医療施設・福祉施設・住宅（分譲・賃貸）の複合施設を整備する。敷地が細分化されている東側の大工町街区に

は、生鮮食料品市場、カーシェアセンター、立体自走式駐車場などが入居する複合施設を建設する。2つの街区を自転車道と自動車道に分離した市道で結ぶ考えだ。

業務概要は同地区での再開発を実現するため、基礎となる各種調査を行い、推進計画として策定する。詳細はこれまで同商店街で進めてきた再開発の効果検証など周辺環境の整理、施工区域の検討、高度利用地区または都市再生特別地区を定める場合の形態規制についての検討、東西街区を結ぶ道路整備の検討、建築計画の策定、概算資金計画の作成、モデル権利交換計画の作成、床取得会社の初期投資額と長期収支計画の作成、住宅販売価格の検討など。

同商店街では約半分がリニューアルし、再開発の成功と商店街再生のモデルケースとして全国から注目を集めている。今回の2街区の再開発事業は、同商店街の再開発との相乗効果が期待されており、2014年に準備組合が設立された。

